

ク リ ッ プ ボ ー ド

『国際経営フォーラム』の電子化に寄せて

経営学部教授 柳田 仁

平成14年度、所員各位のご協力のもとに本誌『国際経営フォーラム』を電子化することに決定した。電子化した理由としてコンピュータ化とデスクロージャの進展が最大の理由である。

具体的には、国立情報学研究所が全国の大学・研究機関等に電子化を要請してきたことによる。これにより机上のコンピュータと全国の大学・研究機関等の機関誌とが繋がったわけである。もちろんまだコンピュータ化を実施しない機関誌もあるので全てではない。

経営学部の機関誌『国際経営論集』は、既に2年前より電子化していたが、『国際経営フォーラム』の方は遅れていた。国立情報学研究所からの要請がなければもう少し遅れたかもしれない。そういった意味で今回の要請は時宜を得たものといえる。

電子化公開に際し、創刊号から13号までの執筆者にその諾否に関する問い合わせが最も重要な仕事であった。最初は、少し戸惑った。ほとんどが電話による問合せである。お留守の方には何度か電話した後、伝言・依頼し、どうやら初期の目標を達成できた。

私共の学部は、まだ14年の歴史しかないとはいえ、学部創立時の退職長老教授から現役の若手教員まで多士済済のメンバーがいる。宗教学の酒豪名物教授・藤田富雄先生、グルメで地味な社会学教授・岩男耕三先生、とぼけたユーモアのある英文学教授・北澤義弘先生、経営学の万年青年教授・坂井原良夫先生等の懐かしい先生方とお話できたのは光栄である。いずれの先生も同『フォーラム』電子化公開を快諾して下さった。

最終的には、電子化公開を問合せたうち3篇（3名）が不可という回答であった。その理由として、あまり公開したくない資料が含まれている、似た論文をその後、他誌に発表している等であった。

一般に、著作物の電子化は、ペーパー発表よりディスクローズの効果は高いので、

執筆者にはプラス作用する面が多い。しかし、今後、電子化公開に耐えるような論文等を作成しなければならないことが要請される。このことは私自身も肝に銘じて執筆活動を続けたい。